

## 事業事前評価表(開発調査)

作成日：平成14年1月30日 担当部・課：農林水産開発調査部農業開発調査課

1. 対象事業名：ブータン国地域農業・農道開発計画調査 本格調査

### 2. 我が国が援助することの必要性・妥当性

#### (1) 現状及び問題点

調査対象地域のルンチ県・モンガル県（東部地域）は、西部地域より所得水準が低く、「均衡のとれた地域開発」を目指すという国家開発5カ年計画において開発重点地域とされている。調査対象地域が抱える問題点として、農道が未整備のため余剰農産物が主として地区内のみで流通していること、農民の農業技術が未熟であること、厳しい自然条件（傾斜地等）に起因する主要作物の生産性の低さ等がある。

#### (2) 国家開発計画、地域開発計画、分野別計画などの計画と当該案件の整合性

ブータン国では、現在、第8次5カ年計画（97年～）が実施されており、「援助からの自立」、「開発への国民参加と地方分権化」、「均衡のとれた地域開発」等が重点目標とされている。この目標は2002年から実施される第9次5カ年計画でも踏襲される予定である。（現在、9次5カ年計画の草案は完成している。）

#### (3) 他国機関との関連事業との整合性

世界銀行が地方道路整備への融資を行っている。また、SNV(オランダの援助機関)が農業分野の支援を行っているが、内容が技術支援に限定されるなど、量・質ともに充分とは言い難い。

#### (4) 我が国の当該国に対する基本的な援助方針との整合性

我が国はブータンとの伝統的な友好関係や同国がLLDCであること等を踏ま

え、同国に対する援助を積極的に行ってきたおり、87年以降ブータンに対する最大の二国間ODA供与国となっている。

### 3. 事業の目的

ブータン国の東部に位置するルンチ県及びモンガル県において、農業振興及び農道開発を主要コンポーネントとするマスタープラン及び行動計画を策定する。調査の過程において、先方政府関係者に対し、計画策定及び計画の活用に係る技術移転を行う。

### 4. 事業の内容

#### (1) 対象

- a. 調査対象：ブータン国東部のルンチ県及びモンガル県
- b. 技術移転の対象：農業省職員、ルンチ県・モンガル県職員

#### (2) アウトプット

- a. 計画策定：ルンチ県・モンガル県での農業開発及び農道整備計画
- b. 技術移転：計画策定を通じた下記技術の移転
  - 1. 調査手法及びその内容の修正・改良
  - 2. プロジェクトの実施・監理
  - 3. 住民参加による農道整備
  - 4. 園芸作物栽培技術
  - 5. 流通加工システム改善
  - 6. 環境影響評価

#### (3) インプット

- a. コンサルタント(分野/人数)

分野	人数	分野	人数

総括/農村開発	1	園芸	1
農業基盤/農道	1	流通加工	1
営農/普及システム/畜産	1	農道建設機械	1
農村社会経済/環境インパクト調査	1		

b. その他

- ・ 研修員受け入れ2名（2002年度）
- ・ 調査に必要な機材の購入

(4) 総事業費

調査に要する費用：約1.5億円

(5) 調査のスケジュール

2002年4月～2003年3月

(6) 実施体制

- a. 協力相手国実施機関名：農業省
- b. 協力相手国実施機関の責任者：農業省次官

5. 成果の目標

(1) 提案計画の活用目標

策定された計画が9次5カ年計画に反映される。

策定された計画がカウンターパート機関による地域農業振興や農道整備の実施の際に活用される。

(2) 活用による達成目標

1. ルンチ県・モンガル県の農村から市場へのアクセスが改善される。
2. ルンチ県・モンガル県の地域住民の所得が20%向上する。

3. ルンチ県・モンガル県の農作物の自給率が70%になる。

## 6. 外部要因リスク

- ブータン国政府の政策の変更
- 異常気象による農業生産の大幅な減少
- 政府の予算状況の大幅な悪化

## 7. 今後の評価計画

### (1) 事後評価に用いる指標

#### a. 活用の進捗度

本件調査結果が援助要請の優先案件としてブータン国財務省（援助受入機関）に提出されたか。または、ブータン国政府によって調査結果の活用、事業化に対して、予算手当が行われたか。

#### b. 活用による達成目標の指標

1. 本件調査結果に従い整備された農道の距離数
2. ルンチ県・モンガル県の農作物の自給率
3. ルンチ県・モンガル県の地域住民の所得

### (2) 評価する方法及びタイミング

フォローアップ調査によるモニタリング（2004年度以降毎年）